CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS
宗教センターだより

幼稚園より

アドヴェント礼拝
11/22木
11/30金
12/ 7金

保護者会クリスマス礼拝
12/ 6木

クリスマス礼拝
12/14金

3学期始業礼拝
2019年1/ 8火

聖書を学ぶ会
2/ 4月

卒園礼拝（年長児）
3/ 7木

終業礼拝
3/14木

卒園式
3/15金

（教諭　鈴木 洋光）

初等部より

感謝祭礼拝
11/20火　初等部米山記念礼拝堂
説教　大嶋重徳牧師

アドヴェント・コンサート
11/30金　18:30開演　初等部米山記念礼拝堂
演奏　オルガン：長田 真実氏
主な曲目　J.S.バッハ：前奏曲とフーガ ト長調BWV 541 N.ブルーンス：いざ来ませ、異邦人の救い主よ　M.レーガー：クリスマス
入場無料

保護者のためのクリスマス礼拝
12/ 7金　初等部米山記念礼拝堂

クリスマス讃美礼拝
12/20木　15:00～17:30　青山学院講堂

初等部チャペルコンサート
2019年2/21木　15:40～16:30
初等部米山記念礼拝堂
ハンドベルクワイア、聖歌隊、トランペット鼓隊

卒業礼拝
3/ 6水　9:10～9:50　初等部米山記念礼拝堂
説教　小澤 淳一（初等部宗教主任）

6年生を送る礼拝
3/12火　初等部米山記念礼拝堂

（宗教主任　小澤 淳一）

中等部より

クリスマス礼拝
12/18火　14:00～16:00　青山学院講堂

特別養護老人ホーム
救世軍恵泉ホーム訪問
2019年1/12土　14:30～15:30

保護者聖書の会
（礼拝と聖書の学びと分かち合いの会）
1/23水 2/27水　10:50～12:00　多目的室

（宗教主任　浅原 一泰）

表紙写真
高等部「秋の伝道週間」

シリーズ サーバント・リーダー

謙虚に誠実に生きる～校友松元茂さんの思い出

山本 与志春
青山学院院長

青山学院創立125周年に「地の塩、世の光」というスクール・モットーを制定しました。その時に意味が分かりにくいとの声がありましたので、ホームページに解説を載せるなど、理解を得るよう努めました。今、「地の塩、世の光」は、青山学院教育方針を端的に表した言葉として広く知れわたり用いられています。「サーバント・リーダー」という言葉もこのような記事を通して次第にご理解いただけたらと願います。

サーバント・リーダーとは、特別な存在、特別な人ではなく謙虚に誠実に生きる人の姿ではないかと思います。青山学院の歴史の中で、多大な功績をあげられた先達の中に、そのようなサーバント・リーダーと呼ぶにふさわしい方はたくさんおられます。しかし、私はあえて私が親しく接した方の中から一人のサーバント・リーダーを紹介したいと思います。

親しみを込めてマツゲンと呼ばれていた松元茂さんは今年5月5日に68歳で天に召されました。青山学院初等部に入学してから、中等部、高等部、大学と進まれました。日曜日は千歳船橋教会の教会学校に通いながらラグビーを続け、中等部ではキャプテン、高等部では副キャプテンとして活躍されたそうです。教会学校の夏のキャンプが奥多摩で行われた時には、昼間のラグビー部の練習は休まず、奥多摩と青山を往復しながらキャンプに参加されました。大学卒業後は、証券会社に勤められ各地を転勤しながら定年を迎えられました。松元さんは、高等部時代の同級生と結婚しお二人のお子様を授かり、そのころ受洗されます。私が松元さんとお会いしたのは10数年前、私が中等部の部長で松元さんが中等部の同窓会である緑窓会の副会長だった頃です。松元さんの一番の思い出は、青山学院大学同窓祭でのコーヒーやジュースの販売で拝見したひたむきな姿です。松元さんは、美味しいコーヒーを皆さんに飲んでもらいたいと、富士吉田まで、富士山の美味しい水を汲みにいきます。ブルーマウンテンのコーヒー豆を買ってきて、その場で挽いてコーヒーをいれるのです。ガソリン代と高速代に加えて時間と手間を考えたら、一杯200円では足が出るかと思いますが、毎年黙々と嬉しそうに作業をされます。朝のテント張りから、夕方の片づけまで楽しそうにされるのです。大変な手間暇をかけておられますので、周りの方がマツゲンさんのご苦労を説明しますが、そのことをご自分から吹聴するようなことはなさらないのです。ただ、皆さんが、美味しいねと喜んで飲んでくださることが何より嬉しかったようです。松元さんは千歳船橋教会のバザーでも、同窓祭と同じように手間暇かけたコーヒーを皆さんに提供されていました。材料は全てご自身の献品だったそうです。さらに、クリスマスやバザーのチラシを歩いて近隣に配り、チラシを見て教会に訪れる方がおられたとのことです。これも人知れず黙ってされていたのです。

緑窓会の日に挨拶をする松元茂さん

「行いを伴わない信仰は死んだものです」（ヤコブ2:26）。これは葬送式に読まれた松元さんの愛称聖句の一つです。松元さんはこの言葉に忠実に生きようとされたように思います。最近は、保護観察になった若者と面談する保護司の働きも始めておられました。亡くなる三日前にご自身が会長をされていた緑窓会の会費を病床から振り込んでおられました。最期まで、マツゲンらしかったと緑窓会の皆さんはおっしゃいます。松元さんは、「自分が好きだからやっているだけなんです」と、コーヒーをいれながら笑っておられました。でも、松元さんが本当に好きなのは、コーヒーを飲んで喜んでくれる皆さんの笑顔だったと思います。自分が人にしてあげられることで、みんなに喜んでもらえること、人に仕えることの喜びを誰よりも深く味わっておられたのだと思います。高ぶることなく、謙虚に誠実に人に仕えた松元さんは、私の中で素晴らしいサーバント・リーダーです。今、神様から「よくやった忠実な僕よ」と祝福と労いの言葉を受けておられると信じます。

Series ◎ Servant Leader

あたらしい 日曜の朝の 過ごし方
～大学新入生歓迎日曜礼拝

塩谷直也
大学宗教部長

キリスト教信仰の土台は、日曜の朝礼拝にあります。しかし近くに教会がない、いきなり地域教会の朝礼拝に参加するのはためらう…という大学新入生を対象に「新入生歓迎日曜礼拝」がガウチャー記念礼拝堂で行われました。チャペルウィークが終わった最初の日曜、2018年5月27日から隔週で6月10日、24日と、計3回行われたこの礼拝は、大学宗教主任会で長年検討されてきたもので、今回、学院連携本部の後援で実現に至りました。

この礼拝の目的は、朝礼拝で学生に「あたらしい日曜の朝の過ごし方」を体験してもらい、礼拝から始まる一週間を味わってもらうこと、またなかなか出席教会が定まらない学生に対し、地域教会への橋渡しをすることです。

この日曜礼拝が通常の「大学礼拝」（月～金10:30～）と違う点は、時間の長さ（約25分→1時間）と献金があることです。しかし、ことはそれほど単純ではありません。1968年に青山学院教会が学外に移転・合同して以来、「礼拝のみが目的の日曜朝礼拝」に関する正式な記録はありません。そうであれば青山学院50年ぶりの日曜朝の「礼拝のための礼拝」であり、実現に向けて多くの困難が予想されました。日曜日午前の礼拝堂の管理責任を誰が持つか、礼拝開始に関し地域教会へどう説明するか、ノンクリスチャンの皆さんへの協力要請（原則、クリスチャン教職員はそれぞれの教会に出席するため参加できない）、「果たしてこの忙しい時代、日曜の朝に人が集まるのか？」という疑問。「時期尚早か…」とあきらめかけるたびに、幾度となく不思議に道は開かれ、何と正式にゴーサインが出されたのが実に2週間前でした。

初日を迎えた5月27日、告知が不十分であったにも関わらず100名の人々が集まり力強く主を賛美しました。その後6月10日200名、24日270名の参加者となり、主を賛美する群れは広がります。しかも学生のみならず教職員、卒業生、たまたまキャンパスにいた親子連れ、多くの人々が礼拝後のティーパーティーまで残り、学院連携本部提供のおいしいコーヒーやドーナツで歓談して帰ったのです。世代を超えて談笑しあう参加者を眺めながら、青山の新しい文化の始まりを予感したのは、決して私だけではなかったはずです。

大学宗教主任会は多くの学生がこの「あたらしい日曜の朝の過ごし方」を体験し、続けて地域教会の礼拝にも参加することを願っています。最後に、この礼拝に参加した方から頂いたアンケートのコメントを少しご紹介します。

「いきなり地域の教会に行くのは不安だったので、大学で体験できてよかったです」

「歌が多くて楽しかった。ぜひ今後も続けてほしい。聖歌隊の歌をもう一曲聞きたかった。今後、妹とも行きたい」

「キリスト教の礼拝に対して敷居が高いイメージがありましたが、今回の青山学院の日曜礼拝を通して、そのイメージが変わりました」

「わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる」
（エフェソ3:20）、キリスト・イエスに感謝して。

※ 後期の礼拝は 10月21日、11月4日、18日に行われました。

あなたの疑問にお応えします!
シュー土戸 ポール

疑　問

❶「紅海の水が割れた」ことが受け入れられない。（中等部3年男子）

❷ 見えない人が見えるようになるのが本当に起こるとは信じられない。（中等部3年女子）

❸ 復活が信じられない。（中等部3年女子）

素晴らしい質問です。問うべき事柄です。三つとも共通のテーマは奇跡です。奇跡を信じられないのではないでしょうか。聖書にはいくつかのところで奇跡が起こったとして記されていますが、普通に考えると奇跡はありえない出来事です。奇跡が実際に起こることが果たして可能でしょうか。

生徒がその聖書の記述を信じられないと思うのは当然です。健全な考え方です。超自然的な出来事は普通に起こることがなく、現代社会であっても、古代社会であっても、人が奇跡をまず信じないのは当然です。

イエスの弟子たちもそうでした。イエスが復活するとは弟子たちは思いもしませんでした。復活の朝に、婦人たちが最初にその出来事を発見し、直ちに弟子たちに報告しました。しかし、ルカによる福音書24章11節には、弟子たちは「この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった」と記されています。ペテロが走って様子を確認しましたが、彼も事の次第を不思議に思いながら帰ったと書いてあります。

聖書の根本的な世界観によると、この世界と宇宙全体の秩序は組織的、体系的です。この世界全体は神様の素晴らしい作品であり、これを通して神の永遠の力と神性を知ることができます。基本的に世界は物理的な秩序に従って動いていますので、人間は学問を通して世界を理解することができます。これも神様のご計画です。

しかし、天地創造の神はその物質的な法則に限定されているわけではありません。奇跡の可能性が全て、これにかかります。もし、この宇宙全体が神様のご計画によって創られているのであれば、その天地創造者である神は、この宇宙の秩序を超えるのではないでしょうか。神様はビッグバンを起こし、この宇宙の物理的な秩序をお造りになったのであれば、紅海の水を割ったり、人を癒したり、復活させたりすることも簡単にできるのではないでしょうか。

聖書に記されている奇跡は神様の永遠の力と神性を示すしるしとして受けとめた方が良いでしょう。聖書の中でも、そのようなしるしは珍しいものとして記されています。一つひとつの奇跡に引っかかってしまうよりも、天地創造の神はどのような方なのかを求めた方が有益なのではないでしょうか。

CHRISTIAN BOOKS & CDs　シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

『聖書 聖書協会共同訳』
出版社：日本聖書協会

シュー土戸 ポール
青山学院副院長 大学宗教主任

「初めに神は天と地を創造された。」
創世記1章1節

2018年12月、日本聖書協会から新しい日本語聖書の翻訳が出版されます。聖書は、世界中で最も多く出版されている本であり、最も多く翻訳されている本でもあります。聖書は古代の文書であるにも関わらず、現代もよく読まれています。言語は時代と共に自然に変化するものですので、多くの国々で、約30年毎に新しい聖書翻訳が出版されています。過去30年間、日本において最も広く使われている翻訳は、1987年に日本聖書協会によって出版された新共同訳聖書です。そして今年、新しい世代のために、新しい日本語の聖書が出版されます。正式なタイトルは「聖書　聖書協会共同訳」です。

日本聖書協会はこの新しい翻訳を作成するために、10年以上を費やしました。新しい翻訳と編集事業には100人以上の学者が貢献しました。幸い、数年前からパイロット版も販売されていました。今までの聖書に親しんでいる方々にとって、慣れない言葉もありますが、全体的には新鮮で分かりやすい翻訳であると言えます。

聖書協会共同訳は新共同訳の改訂編集版ではなく、原典からの最新の発見や新しい聖書学を生かし翻訳されていますので、日本語訳としては、最も正確な翻訳とも言えるでしょう。1980年代に口語訳から新共同訳に変わった時には、名称も大きく変わりましたので、難しい側面も生じました。感謝すべきことに、この聖書協会共同訳では、地名や個人名などの名称がほとんど変更されていません。したがって、新共同訳聖書やキリスト教を知っている方々にとっては使いやすい翻訳になります。

この翻訳は、「礼拝にふさわしい翻訳」として作られていますので、朗読される時に分かりやすくなりました。さらに、より簡潔な日本語をも目指しています。例えば、イエスの有名な教えである黄金律がこのようになります。

「人にしてほしいと思うことを同じように人にしなさい」（ルカ6:31）。

これから、日本の教会やキリスト教関係学校ではこの新しい聖書翻訳が使われることになると思います。翻訳に関しては、個人の好みもあり、日本語のセンスも各世代によって多少異なるため、完璧ではないかもしれません。私自身も、新しい翻訳のパイロット版を読んだときに、少し疑問に思う箇所を見つけました。しかし、全体的な観点からは、新しい世代のための新しい翻訳であると言えると思います。

神の御言葉は不変です。しかし、時代とともに言語が少しずつ変化します。新しい時代の新しい聖書翻訳が出版されて、非常に嬉しく思います。翻訳と編集作業に、10年以上貢献してくださった方々に、大変感謝しています。これから、我々読者が、新しい翻訳を礼拝、授業、また自分の勉強のために活用していくことを期待したいと思います。

最も日が短いこの季節に、光である神の御子、主イエス・キリストのご降誕をお祝いするのは意味深いものがあります。なぜなら、主イエスは、最も暗いところにお生まれになった方だと聖書が伝えているからです。

今年も私たちの住む日本は、台風や地震、たくさんの災害を経験しました。今なお深い傷を負っている方がいることを忘れることはできません。また、被災した方だけではなく苦しみを抱えながらこの季節を迎えている人もいることでしょう。

メリークリスマス。暗闇を照らす光が今ここにお生まれになります。　（高等部宗教主任　山元 克之）

編集後記

クリスマス。暗闇の中に光として誕生されたイエス・キリストを心から待ち望み、お祝いする季節が今年もやってきます。過ぎし1年間の歩みを振り返る時に、（色々あったけれど）その中で、今年も神が全てのことを共に働かせて益としてくださったと、歳を重ねるごとにこの真実に目が開かれていく思いがします。いつも私たちに注がれている主イエスの優しい眼差しがあるから、また次の一歩を踏み出してみようと思える。毎年クリスマスの時期に感じる特別な恵みです。　（初等部教諭　馬越 嶺）

Wesley Hall News　第128号
2018年11月19日発行
発行　青山学院宗教センター　学院宗教部長　大島 力
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）
〈URL〉http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html
〈E-mail〉agcac@aoyamagakuin.jp
編集　ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷　株式会社 万全社

説教

クリスマスメッセージ「あなたは神の目に貴い」

イザヤ書 第43章 4節　ヨハネによる福音書 第3章 16節

大島 力（おおしま ちから）
学院宗教部長

アドヴェント（待降節）の時、よく読まれるのは、イザヤ書40章以下の「第二のイザヤ」と呼ばれる預言者の言葉です。紀元前6世紀に旧約聖書の民イエスラエルが、最も困難な時に語られた言葉です。50年以上も、外国の都バビロンに捕え移されていて、もう自分たちの民族も終わりであると絶望していた人々に、預言者は語りました。

それが43章4節の言葉です。「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛し　あなたの身代わりとして人を与え、国々をあなたの魂の代わりとする」。捕囚の民として外国の町に抑留され、誇りをほとんど失いかけていたイスラエルにとって、これは全く意外な、そして驚くべき語りかけでした。

この言葉で思い起こすのは、マックス・ルケード作『たいせつなきみ』という絵本です。原題は、You are Specialというものです。（以下、いのちのことば社の松波史子訳を参照します）。

あるところに、木彫りの小人ウィミックたちの村がありました。そのウィミックたちを彫っているのは、エリという名前の木工職人で、村を見下ろす丘の上に住んでいた。実はその村では、二つの種類のシールのはり合いがなされていた。一つは金色のシール、もう一つはねずみ色のシール。見栄えのよいものは、金色のシールがもらえ、反対に、表面がざらざらのものには、ねずみ色のシールがはられてしまうのでした。また、才能のあるものも、金色がもらえた。大きな木切れを高々と持ち上げたり、高く積んだ箱を乗り越えたり、歌を上手に歌うものにも金色のシールがはられた。これは現在ネット上で「いいね」をもらえるかどうかに似ていると思います。その一方で、何をやってもだめなものには、みんなお構いなしにねずみ色のシールをはりつけるのです。

パンチネロという名のウィミックは、そのひとりであった。他のみんなのように、高くジャンプしようとしても失敗してしまう。そうすると、周りのものはパンチネロにねずみ色のシールをはり付ける。「帽子を忘れている」、「ほら、また水たまりを踏んづけた」といっては、パンチネロにはねずみ色のシールがはられる。果ては、たくさんねずみ色のシールがはられているからといって、理由なくシールをはられてしまうのでした。今も理由のないいじめの連鎖がありますが、全く同じです。

そこにルシアという女の子が登場します。彼女には、不思議なことに金色のシールも、また、ねずみ色のシールも全くはられていませんでした。たとえだれかが、どちらかのシールをルシアにはろうとしても、それはくっつかず、はがれ落ちてしまう。そこでパンチネロはルシアに訊ねます。「どうしたらそうなれるんだい」。「それは簡単なこと、毎日、エリに会い行くといい」とルシアと答えました。

パンチネロは、迷った末に丘の上に住むエリの所を訪ねます。すると、エリは「パンチネロ、よく来た。わたしが君の名前を知っているのは、わたしが君を造ったからだ」と言い、ルシアには金色のシールも、ねずみ色のシールもくっつかないのは、それは、「あの子が、ウィミックたちが考えることよりも、わたしの考えることの方が大切だと思うことにしているからだ」と明かしたのです。さらに、エリはパンチネロに言いました。「誰が金色やねずみ色のシールをはり付けるのか考えてみなさい。…大事なことは、このわたしがどう思うのかなのだ。わたしは君のことを、かけがえのない宝だと思っているのだ」「覚えておくんだ。君を造ったのはわたしだ。だから、お前さんはそのままで、尊く、かけがえのないということを」。パンチネロは、エリの家を出ます。そして、心の中でこう考えた。「エリは本気で、僕のことを大切に思っていてくれる」。その途端、ねずみ色のシールが一枚、ぽろっとはがれ、地面に落ちた。

このように「たいせつなきみ」という本は終わっています。マックス・ルケードという作者は牧師でもあるので、先ほどのイザヤ書の言葉をヒントにこのストーリーを綴ったのではないかと私は思います。神は言われます。「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛し、あなたの身代わりとして人を与え…」。大きな代償を払っても、この神の視線は、今も変わらず私たちに注がれているのです。

その最も確かな根拠は、ヨハネ福音書3章16節にあります。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。私たち一人ひとりを救うために、神はその独り子イエスを、この困難と破れに満ちた世界に与えられた。それは、私たちの罪の代償として、主イエスが十字架の死を遂げるためであった。それは、イザヤ書43章4節の実現と言える出来事です。

「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛し、あなたの身代わりとして人を与える」。この人とはイエス・キリストであると告白するのが、クリスマスです。

特集 いちばんすてきなクリスマスプレゼント

Special Issue : The Best Present of Christmas

クリスマスの夜のいちばんすてきなプレゼント、それはイエス様。
イエス様はいつも私たちのそばにいて、なぐさめたり元気をくださいます。
クリスマスに寄せる思いを、各部の皆さんに語っていただきました。

神様に導かれて

橋本 治奈（はしもと はるな）
幼稚園教諭

クリスマスは私たちの救い主イエス様のお誕生をお祝いする特別な日であり、またとても嬉しい日です。私は幼い頃からクリスチャンの祖母と母に連れられて教会に通い、また幼稚園から大学までこの学院で育ち、日々神様のお話をたくさん聞いていました。子どもの頃は毎週教会へ行って神様のお話を聞くのが楽しみで、特に誰もが嬉しそうに準備をするクリスマスやページェントが好きでした。

私は幼い頃から神様やイエス様の存在を知っていたので、嬉しい時も悲しい時も神様のお話を聞いたり、祈りを通して何度も助けられたのを覚えています。子どもたちにも小さい頃から神様のことを知ってもらいたい、そして伝えたいと思い、キリスト教保育の幼稚園を選んで就職しました。ですが、幼稚園に入園した時にはまだ神様のことを知らない子どもも多く、どのように神様のことを伝えていけばいいのか考えていると、私自身が神様のことを全然知らなかったことに気付かされ、また悩みました。幼い頃から教会に通う中で、私にとってふさわしい時が来たら洗礼を受けたいと心の中では思っていましたが、その時はいつなのかとずっと考えていました。迷いながら子どもたちと祈ったり、神様のことを話したりしているうちに少しずつ受洗したいという気持ちが大きくなっていきました。そして昨年のクリスマスに牧師先生のお話を聞いているうちに、言葉には表せませんが私の心の中でその時は今なのかもしれないと強く感じ、今年のペンテコステの時に受洗しました。

今年は私にとってまた新たな気持ちで迎えるクリスマスが今からとても楽しみです。クリスマスの本当の意味を伝えながら、子どもたちと一緒に神様の愛を感じ、喜びをもって過ごしていきたいです。

私にとってのクリスマス

西野 優花（にしの ゆうか）
初等部6年

真っ暗で静かな青山学院講堂にハンドベルの音色だけが響き「鐘のキャロル」の演奏で幕が上がるかのように初等部のページェントが始まります。三年生からハンドベルクワイアの一員として参加している私にとって、特別な瞬間です。天使がマリアにお告げをしているような想いで、心を込めてベルを奏でます。

私は教会付属の小さな幼稚園に通っていました。ページェントではソロのフレーズやきれいな衣装の役に憧れていました。初等部の今は、受け継がれるガウン姿で、ベルの仲間と共に演奏し、参加できる事が私の誇りです。

これまでに参加して思う事は、ページェントは「神様を信じることの素晴らしさ」を伝えるものなのだという事です。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3:16）。このことを伝えたいのだと思いました。世界中の子どもたちと、本当のクリスマスを同じ気持ちでお祝いできることがとても嬉しいです。

私は、5年生の夏頃から、お祈りは本当に神様に届くことを実感しています。心配な時や困った時にお祈りをすると、ひとりじゃないから大丈夫と思えたり、困った事が解決したりするからです。初等部に入って毎日の礼拝や宗教の授業で聖書やお祈りに触れる時間が増え、小さな事でも神様に相談するようになったからかもしれません。特にクリスマスの日のお祈りは、たとえ普段の日と同じ内容でも特別に心があたたかくなり、絶対にこのお祈りは届いているという思いになります。

私にとってのクリスマス。それは「イエス様が生まれてくださって本当に良かった。神様ありがとう」と感謝したくなる日です。

アドベントの意味

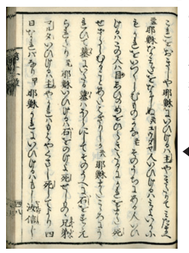
堀 一人（ほり かずひと）
中等部教諭

NYのホスピスでチャプレンをしている私の友人は、若い頃よく使徒信条（讃美歌566番参照）にある「陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえ」る神の重要性を手紙に書いてよこしていた。長いこと腑に落ちない状態だったが、ある体験からその意味がリアルに理解できるようになった。

それは、私が30代の末、突然の病で入院したことだった。がんだった。後日、腸の外側にできた腫瘍が管を食い破り、腹膜内で大出血を起こしていたと説明を受けたが、入院して一月は何の病気か一向に分からず、病状は悪化の一途をたどっていた。体は痩せ細り、息は弱く、意識を失うことも度々で、当に生死の境をさまよった。家族が側にいてくれたものの、人生の終わりはただ一人立ち向かうほかないのだと痛切に感じた。恐ろしかった。また、孤独だった。

その時だ、使徒信条のあのくだりを思い出したのは。そして、死を覚悟していたこの自分の傍らに、もしやイエスが訪ねてきておられるのではと思い至り、苦しい息の中、アルキメデスのように喜んだ。少なくとも十字架の死を苦しまれたイエスなら、絹る藁もなくただ死の淵に落ちていくしかないと思った私の絶望や恐怖を絶対理解してくださる筈だと思った。私の中でヨハネ福音書11章でラザロの死に涙したイエスが、「使徒信条」のあの「陰府にくだ」ったイエスと繋がった。アドベントの季節だった。

その自分が何故まだ生きられているのかはわからない。ただ伝えたいのは、どうにもしようがないほど追い込まれた自分のもとに「神が来てくださった」という確信である。アドベントは、どん底にあると感じている人たちにこそ分かると思う。聞いてもらいたい。苦しみの中、あなたが一人捨て置かれることは決してない。イエスはあなたの側であなたを見つめ、あなたを支え、ともに苦しんでくださっている。



◀『約翰伝』ヘボン、ブラウン訳（1872年刊）資料センター所蔵

新共同訳では「イエスは涙を流された」（ヨハネ11:35）と訳されていますが、ヘボン・ブラウン訳では「耶蘇（やそ）なみだをながしめ」と訳されています。

心を照らし続けるもの

大沼 天萌（おおぬま あも）
高等部2年

忘れられないクリスマスの思い出があります。それは私がまだ幼かった頃の事です。

凍えるような寒さの中、両親に手を引かれ着いた教会。そこはいつもより沢山の人であふれていました。

牧師先生はじめ、教会員の方々から「クリスマスおめでとう」と声をかけて頂き、嬉しさでいっぱいになりました。

クリスマスの礼拝が始まると会堂は全ての電気が消され、暗闇に覆われました。いつもとは違った教会の雰囲気に戸惑い、そして少しの恐怖を感じました。そして次に、当時の私よりも少し年上の女の子が一本のキャンドルを持って、会堂中央をゆっくりと進んでいきました。その小さな白い手に握られた一本のキャンドルの灯はゆらゆら揺れながらも、しっかりと力強く広い会堂内をオレンジ色に照らしていました。そしてその小さな灯はそれまでの私が抱いていた不安や恐怖を、一気に暖かな安堵感へと変えていきました。

「希望」そして「喜び」。今思うと、あの灯はまさにそれそのものでした。現在、全てに恵まれた生活をさせて頂いている私でも、時に悲しみや憤り、絶望感に襲われることもあります。そんな時、イエス様がお生まれになった頃に想いを馳せます。

神様がこの世にイエス様をお遣わしになり、希望を私たちに与えて下さったように、いかなる状況においても神様は共に居て下さる、そう思うと心の中に平安がもたらされます。

あのクリスマスの夜に神様から頂いた「希望」という贈り物は今でも私の心を照らし続けています。神様がたえず与えて下さる愛と希望をしっかりと受け取る為にも、クリスマスのこの時、心を整えて神様を見上げ、御名を賛美したいと思っています。クリスマスおめでとうございます。

本当のクリスマス

古田 しおん（ふるた）
女子短期大学 子ども学科1年

私の通っている教会では、毎年クリスマスになると、小学生は「降誕劇」というイエス・キリストがどのようにお生まれになったかを表わす劇をしています。私はクリスチャンホームに生まれましたので、母のお腹の中にいるころから教会に通っていました。クリスマスの時期になると、小学生は今年は誰が何の役をするのかという話で大盛上がりでした。毎年同じ役をするわけではないのですが、毎年同じ台本を使います。ですから皆、6年間ですべての役のセリフを覚えてしまいました。それぐらい身近に感じるクリスマスですが、毎年特別な思いになります。

幼いころに「降誕劇」をしていた時には、イエス・キリストがお生まれになったという事実だけを理解していましたが、高学年になっていくと、なぜイエス・キリストがこの世に生まれてきたのかということをより深く知るようになりました。知るたびに、クリスマスをより幸せな気持ちで迎えられるようになりました。

以前、友人たちにクリスマスは何の日か知っているかと尋ねたところ、サンタクロースの誕生日、プレゼントをもらう日、恋人同士の日などと言っていました。クリスチャン人口が1パーセントにも満たない日本でも、クリスマスの時期になると街中クリスマスカラーに包まれます。そして、みんなでプレゼントを交換し合い、クリスマスをお祝いしています。でも、クリスマスの本当の意味を知っている人は多くはいません。

多くの方が、本当のクリスマスの意味を覚えて、クリスマスを迎えられるよう祈っています。ぜひ、今年は近くの教会に足を運び、いつもとは違うクリスマスを過ごしてみてください。きっと素敵なプレゼントが待っています。

世を照らす光

王 馨驕（おう けいきょう）
大学院 国際政治経済学研究科修士2年

クリスマスといえば、イエス様の誕生日として知られていますが、実際にはイエス様の正確な生年月日は聖書の中に記載されていないという事実をキリスト教概論を通して知りました。昔の人たちは一年で夜が最も長く、寒い季節がやって来る時に、イエス様の誕生日を祝うようになったと言われています。クリスマスの季節になると、街中にイルミネーションが溢れ、クリスマスツリーも色鮮やかに飾られます。バレンタインデー以上にロマンチックな雰囲気に感じられます。その日を選んで好きな人に告白する人や、デートするカップルも少なくないでしょう。しかし、クリスマスの本来の意味を知っている人はそれほど多くないでしょう。私もその一人かもしれません。私は文学部を卒業後、国際政治経済学研究科に進学し、世界の平和について日々考察しています。青山学院に長い間在学しているため、学院の伝統行事である点火祭やクリスマス礼拝などのクリスマス行事に多く参加する機会がありました。私が大学1年生の時、文系の学生はまだ相模原キャンパスに通っていました。夜になると、チャペル前の芝生の周囲に飾られているイルミネーションが十字架の形のように見えます。その美しい景色を眺めることで、初めて青山学院がクリスマスを祝っていることを認識しました。青山キャンパスに移ってからは、毎年のようにクリスマス関連行事に参加するようになりました。点火祭が恒例化することで、参加者数が年々増えていることを実感しています。クリスマスがあるからこそ、暦上で夜が長く、寒い季節でも、人々がワクワクする気持ちを持って迎えることができるのではないでしょうか。ロマンチックな雰囲気の中で多くの人がクリスマスを楽しみながらも、クリスマス本来の意味を友人の前で語ることがかっこいいのではないでしょうか。在学中に全ての人が、点火祭をはじめとしたクリスマス行事に積極的に参加し、青山学院スクール・モットーである「地の塩、世の光」という理念とともに、クリスマスの意味がより広く伝えられることを切に願っています。

CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS
宗教センターだより

高等部より

クリスマス礼拝
12/19火　高等部PS講堂
説教　陣内 大蔵
（日本基督教団東美教会牧師）

クリスマス合同コンサート
12/22土　高等部PS講堂
オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部の演奏。

ホワイトキャンプ（伝道キャンプ）
2019年1/4金－6日(予定)

（宗教主任　山元 克之）

女子短大より

クリスマス礼拝
12/12水　13:10～14:30
ガウチャー記念礼拝堂
説教　神代 真砂実（東京神学大学教授）

グロリアス・クワイア クリスマス・チャリティー・チャペルコンサート
12/21金　18:15～19:30
女子短期大学礼拝堂

（宗教活動センター）

大学より

クリスマス礼拝
12/18火　18:30～19:30
青山キャンパス
ガウチャー記念礼拝堂
説教　棚村 恵子（東京女子大学教授）
12/20木　18:30～19:30
相模原キャンパス
ウェスレー・チャペル
説教　小野 慈美（捜真パブテスト教会牧師）
どなたでも参加できます。

オルガニスト養成講座受講生発表会
2019年1/19土　15:00～16:30
相模原キャンパス
ウェスレーチャペル
2/2土　14:30～17:00
青山キャンパス
ガウチャー記念礼拝堂
講座受講の学生によるパイプオルガン演奏発表会です。

オーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイ・プログラム
3/1金－24日
クリスチャン家庭に滞在し、現地校で英語研修、日曜日には礼拝出席とキリスト教や異文化の体験をします。また、地元の小中高生とも触れ合いの時があります。

（宗教センター事務室）

本部より

クリスマス・ツリー点火祭 ～降誕を待ち望む礼拝～
11/30金　相模原キャンパス16:40～
青山キャンパス　17:50～
全学院の礼拝として行います。

Art クリスマス Aoyama
12/4火－12水　短大ギャラリー他
クリスマスをテーマとした絵画展です。
どなたでもご自由においでください。

全学院教職員新年礼拝
2019年1/7月　17:00～
ガウチャー記念礼拝堂
説教　山元 克之（高等部宗教主任）

（宗教センター事務室）